

## [078\_03]法政研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/20600>

---

出版情報：法政研究. 78 (3), 2011-12-20. 九州大学法政学会  
バージョン：  
権利関係：



## 九州大学教授 石田正治 先生

石田正治教授は、一九四七年十月六日福岡県に生まれ、一九七一年九州大学工学部を卒業、同年、同大学法学部へと編入された。一九七三年九州大学法学部を卒業後、朝日新聞社に就職し、総務局で四年間勤務されたのち、再び学究の道へと戻られた。九州大学大学院法学研究科修士課程および博士後期課程を経て、一九八二年四月九州大学法学部助手に就任された。一九八四年四月同大学助教授に着任、一九九二年五月に教授に任用された。またこの間、一九九三年には九州大学から博士（法学）号を授与されている。

石田教授は、日本におけるアジア民族主義運動研究の嚆矢である谷川榮彦先生の指導のもと、ヴェトナム戦争史研究から研究者としてのキャリアを開始された。その後、アメリカの冷戦政策の形成・変容過程を、国内体制に焦点をあてて明らかにするという、それまでの日本国際政治学においてはほとんど見られなかった画期的な研究に取り組み、その成果を『冷戦国家の形成——トルーマンと安全保障のパラドクス』（単著、三一書房、一九九三年）としてまとめ出版された。

アメリカの冷戦政策史研究に従事されるなかで、石田教授は、次第にナシヨナリズム論への興味を深められていった。研究対象をアメリカから沖縄へと広げられた石田教授は、ヤマトと沖縄のあるべき関係を模索した沖縄の言論人たちの姿をとらえて、日本のナシヨナリズムを照射しようとする新たな試みに果敢に挑まれた。その成果は、『沖縄の言論人大田朝敷——その愛郷主義とナシヨナリズム』（単著、彩流社、二〇〇一年）および『愛郷者伊波普猷——戦略としての日琉同祖論』（単著、沖縄タイムス社、二〇一〇年・二〇一一年）年度伊波普猷賞受賞）として出版された。

沖縄研究に専心されるなかで、九大における沖縄理解をより深化させたいと考えられた石田教授は、沖縄が抱えるさまざまな問題に最前線でかかわっておられる方々を招聘し、学生指導にあたっていただくという意欲的なプロジェクトを立ち上げられた。石田教授のご尽力と、沖縄タイムス社、琉球新報社、沖縄県庁のご協力により、計八名の方々と法学部教員としてお迎えすることができた。本学学生にとっては、国際政治・国内政治の現場を知る諸先生方から直接話をうかがう貴重な経験となり、また教員にとっても、学問と現実政治を架橋させる得がたい機会となった。

石田教授はまた、「人間の尊厳ある生き方」を多面的に探求することにも熱心であった。そうした取り組みのひとつとして、医師やソーシャルワーカー、民間介護業者といった方々とともに「NPO法人共生支援センター」に携わり、高齢者問題を考えつづけておられる。また二〇〇八年度からは、九州大学地域形成学グループと福岡県川崎町との共同事業「地域創成リーダーセミナー」の主催者のひとりとして活動されている。同事業は、地域リーダーの養成を地域活性化にむけた重要な手段と位置づけ、そのための学問的基盤を創成しようとする取り組みである。石田教授は、川崎町との連携を図りながら、セミナー研修や公開シンポジウムの実施において、事業の要として、力を発揮されている。

石田教授には、定年を迎えたのちも、その飽くことなき知的好奇心をさらに発揮して、研究を続けていただけるよう心より願っております。先生の長年のご功績と、今後のご活躍を祈念して、本号を献じます。石田先生、ありがとうございます。